

【発言者名あり】令和8年度 第1回 湯沢市地方創生推進会議 議事録

- 1 日 時 令和8年7月21日（火） 14:00～14:50
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎4階 会議室 41
- 3 出席委員 【出席者】
・ 石沢真貴(秋田大学)、高橋隆太(湯沢商工会議所青年部)、
関係者 宇佐美希美(こまち農業協同組合)、渡部千晶(湯沢市観光物産協会)、
(敬称略) 田中甫幸(国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所)、
信太浩信(湯沢公共職業安定所)、小坂広美(秋田県雄勝地域振興局)、
姉崎美紗(北都銀行湯沢支店)、岩佐真(連合秋田横手湯沢地域協議会)、
飯田真悟(湯沢市総合戦略アドバイザー／NECソリューションイノベータ株式会社)
【欠席者】
阿部俊介(ゆざわ小町商工会青年部)、栗田宏子(秋田銀行湯沢支店)、
工藤光士郎(湯沢青年会議所)、高橋玲子(合同会社 Linpeace)
- 4 案 件 (1) 第3期湯沢市総合戦略にかかる令和7年度の実績について
(2) 次期総合振興計画との一体化について
(3) その他



案件での発言要旨

案件（１）第３期湯沢市総合戦略にかかる令和７年度の実績について

（事務局から資料について説明）

◆アドバイザー

婚活支援とライフプランセミナーに関して、満足度が非常に高いように思いますが、これに対して婚姻率や参加率、利用率が低いと思います。満足度が高いが規模が小さいとか、浸透しないという構造に関して、周知方法以外にどのような要因があると考えられますか。

●市

結婚サポートをするにあたって婚活や結婚サポートという看板を掲げることで、反対に遠慮してしまう人がいるのではないかと考えました。市では昨年、婚活をサポートするワークショップを開催しましたが、市民向けには結婚や婚活という言葉を使わずに、若者が交流できるイベントということでその交流自体はうまくいったという例もありますので、言葉の使い方というのも一つポイントとしてあるのではないかと考えております。

◆アドバイザー

地域おこし協力隊の着任実績が、残念ながらゼロということで、何が原因なのでしょう。スマウトを活用していると思いますが、数多くの自治体が行っているものに乗ったときの効果と、湯沢市が独自に行ったときの効果は違うのではないかと仮説を立てています。そこに関するご意見をいただければと思います。

●市

現在活躍されている地域おこし協力隊の中で最後に着任いただいたのが、eスポーツで活躍されている協力隊の方でございます。この方を募集するにあたって、こちらが要望する活動と移住したいという方々が思っている活動がなかなかマッチングせず、望んだ人材を見つけるまで時間がかかったという経緯があります。

また、協力隊として来てくれた方々が３年間活動し、その後しっかり定住できるようにサポートをすることについても課題があると考え、試行錯誤しており、なかなか次のステップに進めていない状況です。

今までは市がミッションを設定して希望する人材を募集していましたが、逆に、移住したい方に湯沢市でやりたいミッションを描いてもらうというやり方もあるのではないかと考えています。

◆アドバイザー

今までこちらに合うものを求めている部分が、どのようなニーズがあって湯沢市に行きたいのかという部分をアレンジするなど、相手に合わせてコーディネートしてあげることが必要だということですね。

湯沢市で型を作ってこの型にはまる人を募集するよりは、世の中のニーズに合うような形を湯沢市で逆に用意した方が、興味関心を持たれる可能性があるということでしょうか。

●市

まだまだ事務レベルでの検討で、それが最終的な定住として効果が上がるのかというところまではまだ自信を持って言えるわけではないですが、着任率という点では、上がるのではないかと考えています。

◆アドバイザー

マーケットの声を聞くというアクションをプラスしていただきたいと思います。湯沢ドリブンではなくて、マーケットドリブンにした方が、マッチングとしては可能性が少しでも上がるのではないかと思いますので、そこはぜひ頑張っていただきたいと思います。

◆アドバイザー

最後をお願いします。地域公共交通の利用率や新規企業誘致件数、医療健康に関する満足度、e スポーツなど、抜きん出て成果が上がっているものがいくつか見受けられます。これがなぜうまくいったのかというところを深堀して、他のうまくいっていない施策に横展開できるものや、一部でも使えるものがあれば補っていくような形で展開していければ、少なからず数値の向上に貢献できるのではないかと思います。

うまくいっている原因が何なのかというところをちゃんと調べて、それが横展開できるものなのか否か、横展開できないのであれば何が原因なのかというところをしっかりとファクトをベースに計画を立てていただければ非常に良いかなと思います。

○委員

KPIの「ワーク・ライフ・バランス」の推進に取り組んでいる事業所等について、実績の記載がありませんが、これから調査されるものでしょうか。

●市

こちらの数値は事業所へのアンケートにより把握していますが、隔年での実施となっており、令和7年度に調査は実施しておりません。

○委員

市公式 SNS のフォロワー数について、こういったときにフォロワー

数が増えていて、どういった人たちがどういった項目に関心をもって
いるのかといった分析はどのように行っているのでしょうか。

また、移住情報といったものをピンポイントに発信しているのかど
うかというところをお聞かせください。

●市

SNS のフォロワー数の分析ですが、Facebook、X、LINE、YouTube と
一部の緊急防災メールをカウントしています。

それぞれ特徴があり、中でも最もフォロワー件数が伸びているのが
LINE となっており、4 年前と比べると約 7 倍となっています。一方で
Facebook は 4 年前と比較すると約 1.1 倍の伸びとなっています。これ
は LINE が単に情報発信だけでなく、ゴミ出しのプッシュ通知を受け取
れたり、市の健康診断結果を提出したりといった機能を有するためだ
と思います。特に若い方々は市役所に来て簡単に手続きができるとい
う方よりも、市役所に行かなくても手続きが済むことを望んでいる方
が圧倒的に多いので、そういった方々にフォロワーが拡大しているの
ではないかと思います。

その一方で、メールに関しては、緊急防災メールを配信しておりま
すが、これを受信する登録者数が逆に若干減っています。これはおそ
らく、LINE の方で防災無線の放送内容を受け取れるようになり、役割
がメールから LINE に移っているためだと思っております。

また、移住定住の発信もしておりますが、最もフォロワー数が多い
LINE に関しては、生活の情報や手続きに関することなど様々な情報を
発信しており、移住定住については一部となっています。

最近では、情報発信をしすぎると LINE をブロックされるということも
危惧しています。ただ、熊の出没情報などは発信しなければ住民の安
全を守れないため、その辺のバランスをよく考えなければうまく情報
発信ツールを使っていただけないのかなということも少し考えていま
す。

○委員

フォロワーの年齢層や居住地といったところの分析まではできてい
ないということでしょうか。

●市

LINE はユーザー名しか把握できませんので、年齢層や居住地といっ
たところまでは分析できていませんが、増加傾向からは現役世代の方
が増えていると考えられます。

また、各町内会でスマホ教室が実施されており、LINE の設定まで学

○委員	習している町内会もあるため、高齢者の増加もあると思います。 にぎわいの創出による地域経済の活性化について、道の駅おがち周辺整備事業が挙げられていますが、昨年は横堀道路の開通に合わせ、市道や駐車場の整備していただいております、今後さらに効果が出てくると思いますので、令和 8 年度の実績に期待したいと思います。 人口減少が進んでいる中で、こういった外から来る人がどれだけインパクトを与えるのかというところに関心があります。先ほどの話にもありましたが、地域公共交通の利用率のような数字的にもインパクトがある部分は横展開が重要だと思います。この観光客の数というのも、地域公共交通の利用率と正の相関があった場合など、ポジティブな変化が分析の中で見えてくると次の施策展開にもつながってくるのではないかと思います。
●市	東北中央自動車道横堀道路が完成し、湯沢市への入込も増えると捉えています。昨年の観光入込客数につきましては、イベントによっては熊の影響により少なくなっているものもありますが、種苗交換会には 56 万人の来客がありました。今後は東北中央自動車道を含め、見込みを増やしていきたいと考えています。
●市	地域公共交通については利用率が若干向上している中で、国土交通省でも地域公共交通のリデザインの取り組みを進めています。市では、地域の公共交通の確保と外部から来た方の 2 次交通の確保という部分も見直していかなければならないということで、今年度新たなオンデマンド交通の計画策定に取り組んでおります。来年度に実証運行し、令和 10 年度に本格運行ということで、3 年間かけて見直しをしていきます。
○委員	e スポーツ関連イベントの開催について、達成率が 250% と非常に高いですが、地域おこし協力隊の方が活躍されたということでよいでしょうか。
●市	昨年、e スポーツ推進のミッションのために地域おこし協力隊に着任いただきました。その中で市の主催事業として、目標 2 回に対し 5 回開催し、計 180 人の参加がありました。このほか、地域に出向いて e スポーツを広めたいということで、地区センターや高校、商工会議所、市長会などで e スポーツに触れていただく体験会を 22 回開催しま

した。これをもっと市民全体に広げていきたいと考えておりますし、その拠点となる場所を駅通りに設置しています。

○委員

では、e スポーツ推進の地域おこし協力隊は1名で十分ということか。

●市

商工課の担当も一緒になって推進していますし、商工会議所や地区センターの方々にも協力していただいておりますので、その点については大丈夫だと思っています。e スポーツという言葉に馴染みのない高齢者の方でも、実際にやってみると面白いと言ってもらえますので、これをどのように広めていくかというところがこれから重要になると思います。

○委員

先ほどうまくいっている施策について分析すると良いという意見がありましたが、現時点で答えられるものがあればお聞きしたいです。

●市

現時点では詳しく分析はできていませんが、それぞれの施策についてはこういった要因で目標を達成できたのかという検証を常に行っておりますので、うまくいっていない施策に反映させて取り組んでいきたいと思っています。

案件（2）次期総合振興計画との一体化について

（ 事務局から説明 ）